

「評価結果の概要」

センターが把握している圏域の特徴 2023年12月1日現在

【圏域の人口等】

圏域人口：55,591人

高齢者人口：14,888人

高齢化率：26.78% 高齢化率は市全体と比較し高い。

豊島、中豊島、豊島北、豊島西、原田の5校区がある。

豊中市の中間に位置し、阪急曽根駅、服部天神駅がある。

曽根駅周辺には大型スーパーもあり、医療機関も複数ある。曽根駅西側の原田地区は急な坂で介護が必要な状況になると生活に苦慮することも多い。

服部天神駅周辺はほぼ平地で、商店街も活気があり、日中の人の流れは多い。文化住宅が多く、高齢世帯、単独世帯も多い。

阪急宝塚線から離れている豊島西地区、原田地区では、空港南部地域で、工場も多く、商店は少ない。病院も少なく、交通の便があまり良くない。

圏域全体として、賃貸住宅(アパート・文化住宅)で暮らす高齢者も多く、立ち退きに伴う転居など、住まいに関する困りごとも多い。

中西部は介護保険事業所が駅前中心に多くあるが、豊島西地区は少なく、地区によっての偏りが強くみられる。

取り組み方針や特徴

【センターの運営方針】

3職種が連携して「総合相談支援」にあたるとともに、精神保健福祉士の資格を有する職員も多く、認知症、精神疾患等の利用者・家族への早急な対応・判断を行うよう心掛けている。認知症初期集中支援チームの設置もしており、チームと連携を密にとりながら、認知症予防や早期介入への取り組みを重点的に行う。

ISOの認証を取得し職員教育を行うとともに、均一なサービスが迅速に提供できるよう取り組んでいる。

【特に力を入れて活動している点】

1, 地域の通いの場づくり支援

体験会の開催や、地域教室、サロン等で、介護予防について啓発に努めている。

通いの場担当者を含めて介護予防担当者を複数名担当とし、活動に力を入れている。

2、認知症高齢者支援

- ・ 認知症の早期把握・早期対応の取り組み（地域教室の重点テーマとして取り組む、認知症初期集中支援チーム・認知症疾患医療センターとの積極的な連携、認知症おたすけマップの積極的配布）

- ・ 市民に向けた地域教室で、毎月認知症予防教室と題して、認知症に対する介護予防、啓発を実施している。

3、各関係機関との連携の強化

- ・ 老人会、サロンへの参加

- ・ 高齢部会（全校区）開催時に案内する関係機関に案内・周知

- ・ なんでも相談へ訪問 民生委員 校区福祉委員との情報共有

※校区担当を2名体制とし、いつでも相談しやすい、顔の見える関係づくりに努めている。

- ・ 権利擁護関係機関との連携（リーガルサポート、消費者センターくらしかんへのつなぎ等）

- ・ 新規開設事業所への訪問

【活動の中での課題やその解決策】

1、地域包括支援センターの啓発

継続して、地域包括支援センターの周知に力を入れ啓発を続けてきた。

相談件数は毎年増えているため、高齢化が進む中、より一層の啓発が必要と考える。積極的に地域に足を運んで地域包括の周知を行う。CSW・校区福祉員、民生委員と連携し、地域行事やサロン等の参加、新しい連携先アプローチなど、今後も検討していく。

高齢者を家族に持つ若い市民に対しての啓発も課題である。

子ども向け認知症サポーター養成講座を若い世代への啓発の取り組みとし、その他啓発方法も検討していく。

2、認知症の方の支援、認知症予防

高齢者人口・高齢化率は上がり、今後も認知症高齢者が増えることが予想される。現在も地域包括支援センターに寄せられる認知症の方の相談では医療・介護サービス拒否や社会からの孤立などの問題が挙げられている。

地域教室では認知症予防へのニーズが高い。今後も「認知症予防」を地域教室の重点テーマとし開催していく。満足度やニーズ調査を継続していく。

今後も認知症関連の各関係機関との連携を密にしながら、認知症の方への支援、認知症予防に取り組む必要がある。また認知症初期集中支援チームとの連携、認知症サポーター養成講座の開催、認知症カフェの参加等、積極的に開催していく。

3、圏域の特徴に合わせた地域包括ケアシステムの構築

各関係機関からの情報収集や高齢部会での顔合わせ・情報提供の機会を作り、企画シートを用いて地域ニーズの把握に努め、地域ごとの特色やニーズを把握する。今後も地域の特性に応じた、地域包括ケアシステム構築、強化に向けて、圏域すべての校区ごとに企画シートの作成、高齢部会の開催、医師・薬局など医療機関の高齢部会の参加促進など継続していく必要がある。

【その他】

〈地域包括支援センター職員の対応力向上に取り組む〉

- ・積極的な研修参加を行っている。
- ・教育訓練表を作成し個人の力量の把握、毎年進捗を確認していく。

総評

【特徴的な取組内容】

●圏域の福祉事業所と協働で、小学校での認知症サポーター養成講座が開催されています。用具を含む介護保険事業所や民生委員・児童委員も参加されており、グループワークや体験コーナー等、認知症に留まらない啓発活動が展開されています。また、地域のマンション等にも、寸劇も交えた啓発活動が行われており、ボランティアの主体的な活用も交え、積極的な展開を拡充されています。

●通いの場の内容が拡充されてきており、啓発活動や認知症カフェ等の参加者や地域事業所の方々も含め、横断的重層的に展開されており、相乗効果につながられています。

【さらなる質の向上の余地がある点】

●今年度本格化した、子ども向け認知症サポーター養成講座を発端に、子どもやその保護者世代等、年齢層を上げた、つながりや活動をの拡充することで、地域作りや、地域の集える場の発展に期待します。

●地域でのさまざまな展開に期待がもてる一方で、関係機関、地域住民等とより一層連携を深めた、持続可能な体制、方法での実施が望まれます。